

阿蘇くじゅう国立公園阿蘇地域エコツーリズム基盤施設整備基本計画策定業務

1) 調査の概要

◆目的

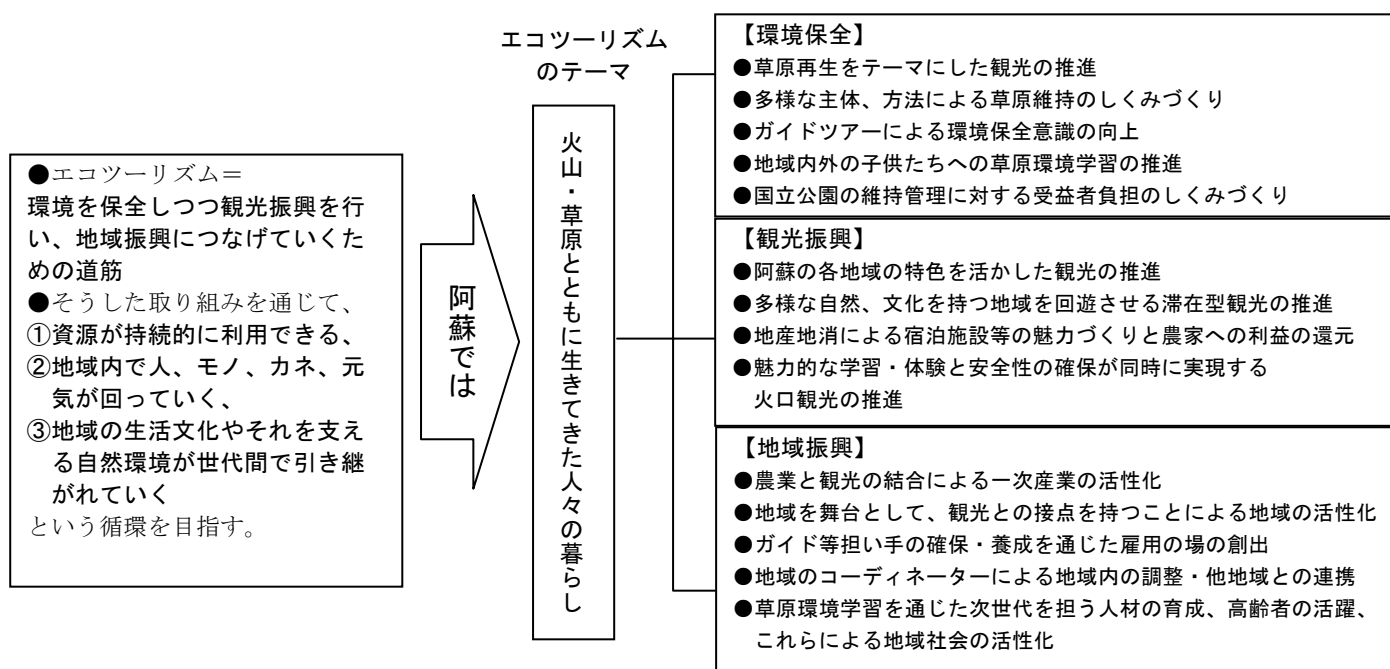
環境省や地域が行ってきた様々な取組みの状況（国立公園の適正な利用の促進、草原保全、エコツーリズムの推進等）を踏まえ、阿蘇地域におけるエコツーリズムのあり方を検討し、エコツーリズム基盤施設整備事業による国立公園利用施設の整備計画を立案する。

◆調査の対象範囲：熊本県阿蘇市、阿蘇郡高森町、南阿蘇村

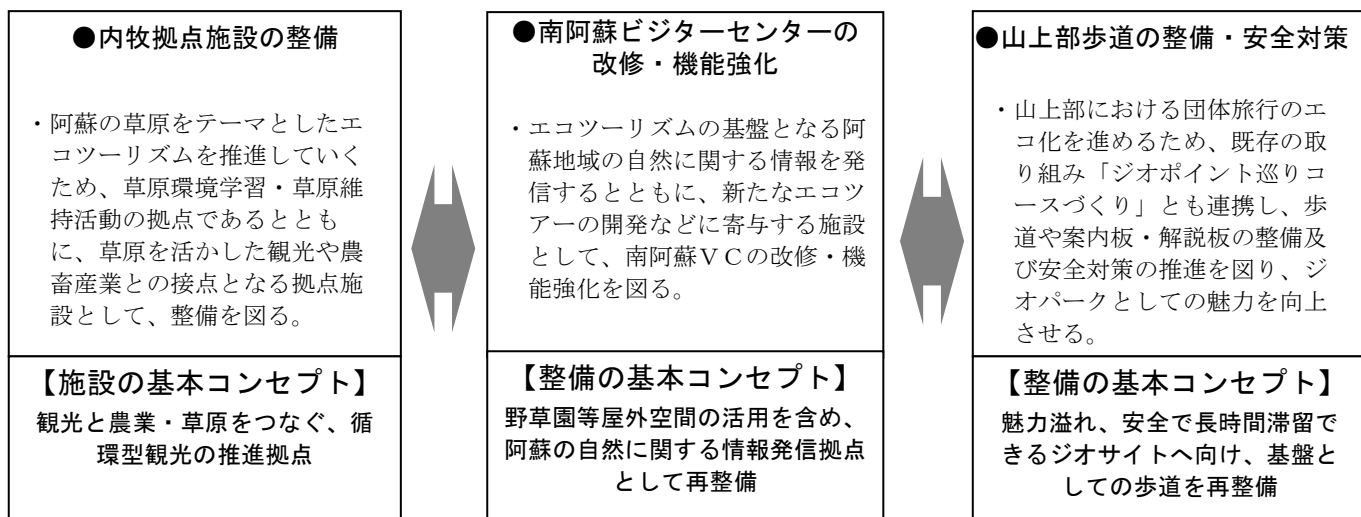
2) 調査結果

① 阿蘇地域のエコツーリズム推進に向けた基盤施設整備

【エコツーリズムの取組みの方向】



阿蘇地域のエコツーリズム推進に向けた基盤施設整備



② 内牧拠点施設の整備基本計画と管理運営計画

◆施設の基本コンセプト＝「観光と農業・草原をつなぐ、循環型観光の推進拠点」

◆施設の整備・運営の基本方針

●環境省施設に地域が主体となって整備する施設を併設し、機能を分担

- ・経済活動を通じて地域の活性化に寄与する取り組みや情報の収集・発信、広域連携のための高度な管理機能等が必要となるため、環境省による「草原学習センター（仮称）」の整備に合わせて、地域が主体となり運営する「草原エコツーリズムセンター（仮称）」を整備する。

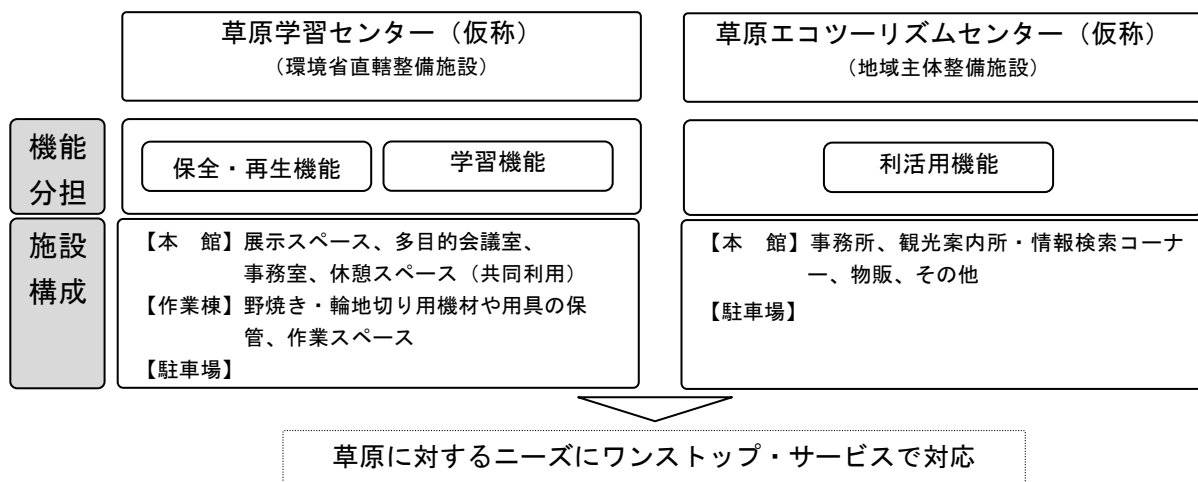
●2つの施設の一体的整備を前提とした施設構成とし、相乗効果を期待

- ・2つの施設が連携して機能を発揮することによって相乗効果がもたらされることを目指すとともに、共同利用スペースなどを設けることによって、効率化を図る。

●多様な主体による運営協議会を設置し、2つの施設が連携した運営を行う

- ・複数の団体・機関の入居による連携・機能強化を目指すとともに、専門性の高い団体の運営への参画、事業企画や内外のコーディネートを担う事務局の設置により、草原再生・利活用のための推進体制の強化と情報の一元管理を活かしたワンストップ・サービスの提供を行う。

内牧拠点施設における2つの施設整備と機能の分担と施設構成の方針



◆草原学習センター（仮称）の整備基本計画

●立地：阿蘇市内牧小里（はな阿蘇美付近）

- ※「平成18年度阿蘇草原再生草原環境学習拠点整備基本構想策定業務」における候補地5箇所（阿蘇市、高森町、南阿蘇村）から選定

●利用者数の想定：17万人／年、2,000人／日（計画日集中率1.2%程度）

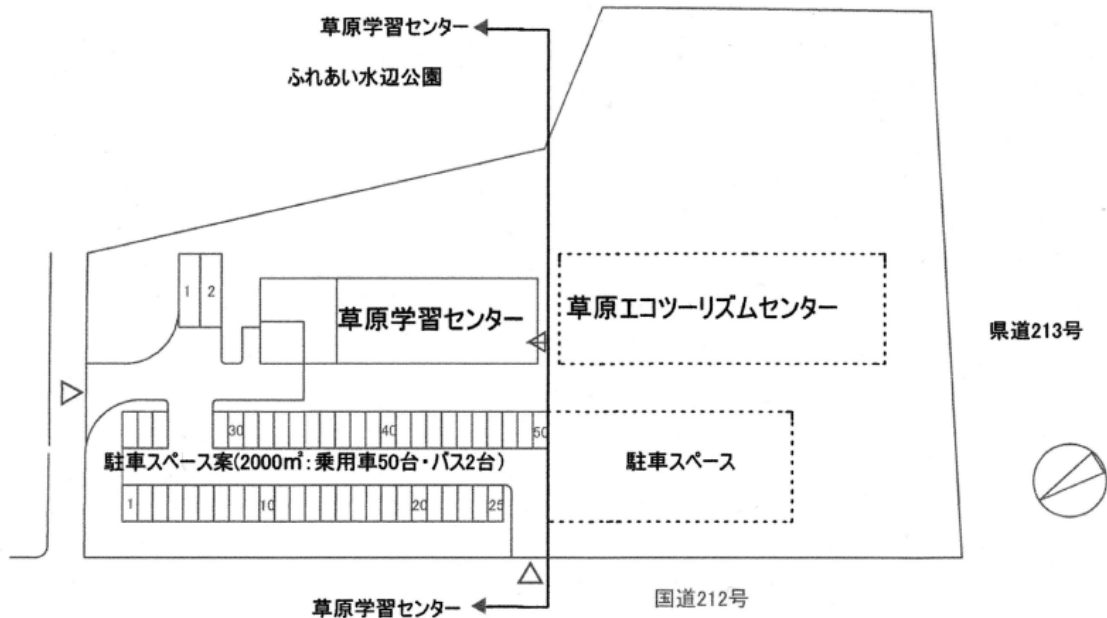
- ※草原エコツーリズムセンターを含む内牧拠点施設の利用者数

●草原学習センター（仮称）の敷地面積・施設面積の想定

種別	面積 (㎡)	備考
A. 草原学習センター本館	462	
B. 作業棟	174	
建物合計(A+B)	636	
C. 建物用地及び周辺園地等面積	2,544	建ぺい率25%を想定 (636㎡÷25%=2,544㎡)
D. 駐車場	2,000	普通乗用車50台、大型バス2台収容
C+D	4,544	
E. 草原学習センター敷地面積合計 (敷地全面積 11,500㎡)	4,600	端数切り上げ 敷地全面積の40% (11,500㎡×40%=4,600㎡) に相当 Eをベースにした建ぺい率：13.8%

(参考) 敷地利用及び施設構成のイメージ

内牧拠点施設草原学習センター（仮称）の敷地利用計画



草原学習センターの整備計画平面図

